

令和6年度 練馬区立関中学校 学校経営計画

令和6年4月3日
校長 大澤 秀吉

1 はじめに

先が見えない時代と世間では言われている。そのような時代だからこそ教育が、未来を創る礎となる。今、このような状況下で教育に携われることは天啓ともいえる。

学校が存在するためには、「校地・校舎」「教職員」「生徒」がそろわなければ学校ではないということ、「地域から学校を借りて教育に当たっている。学校は、生徒のためにある。」という大前提がある。このことを踏まえ、生徒を第一に考えた学校運営や教育活動を展開していくことが重要であり、50年の歴史と伝統ある学校として、地域・保護者・生徒から信頼され期待に応え「関中学校でよかった!」と全生徒および保護者や地域の方々に言わせることである。

地域の学校として地域・保護者・生徒からの、全教職員が教育への情熱と英知を結集して協働し、関中学校の令和6年度の教育を創造し充実させていきたい。

2 学校経営方針の根幹

大人や教師の категория にあてはめ生徒を一般化することなく、生徒一人一人をしっかりとらえ、個々の生徒の課題解決に向けた指導および支援を教職員一丸となり進めていき、学校評価の「関中学校でよかった」という項目を100%にする。

- (1) 生徒一人一人の違いを大切に人権尊重をふまえた教育を展開し、生徒が自らの命を第一としてとらえることが教育を展開する。
- (2) 様々な特性を有する生徒が共に学び合う、公正でより良い教育環境を構築するために、令和5年度、6年度は練馬区教育研究校として「特別支援」を研究主題とした研究実践を発表する。
- (3) 公立中学校は、「地域の中にあり、地域とともにあり、地域に支えられながら存在する学校」である。地域と連携し、ともにある学校を目指し学校経営を行う。
- (4) 教職員一人一人が専門分野・分掌での役割・学年での役割・地域連携などを意識して学び・活動し、自己の能力を高め成長し続ける。
- (5) 未来を担う生徒に「目標設定→計画→実行→途中結果→振り返り(変更・継続)→結果」の過程を教師の指導・支援のもと身に付けさせ「どこでも、やっていけるたくましい生徒」を育成する。
- (6) 生徒も教職員も心理的安全性に基づいた学びあえる環境を整え、解決志向・実践志向の積極的な学校運営を行い、「やればできる」「もっとうまくできる」と考える教師たちの姿勢を育成し教育活動へ反映させる。
- (7) 生徒が未来へ向けた「より良い判断」「より良い思考」をするための基礎学力を保障する。
- (8) 感情的にならず常に生徒に温かい眼差しを向けた生徒への指導ができるように、常に指導における言葉を考え、一体のパターンで語り、生徒に指導される安心感を与えられるよう、個々の教師及び全校体制で研鑽につとめる。
- (9) 校務用の文章は、例年通りではなく、だれが見ても要点がすぐつかめる形のものを作成する。
- (10) 災害、非常時、様々な事故にしっかり対応できるマニュアル作成し研修等を通じて共有することで、危機意識を念頭に置いた学校運営を行う。
- (11) 服務事故(会計事故、体罰、暴言、不適切な指導・個人情報漏洩等)をゼロとする。

3 目指す学校像と教育スローガン

本校は、次の教育目標のもと令和6年度で創立50年目を迎える。

関中学校 教育目標

- ◎ 自分の命を大切にすべくたくましい人を育成する
- 挨拶をする人であれ
- 言葉を大切にすべく人であれ
- 公正な人であれ
- 健康な人であれ

本校の教育目標の実現のために、次のような「目指す学校像」を掲げる。

目指す学校像

- コミュニケーション能力を高め良好な人間関係を構築できる生徒を育成する学校
- 言葉の力を想像し様々な配慮ができる生徒を育成する学校
- 思いやりをもって他者と接し自他を大切にすべく協働できる生徒を育成する学校
- 心身の大切さを自覚し健康的な生活を送ることができる生徒を育成する学校

目指す教師像

- 信頼関係がすべての基本となることを認識し関係構築を疎かにしない教師
- 生徒の実態に応じて、根気強く繰り返し指導をする教師
- 教師の感情は伝えるが、感情的な指導を行わない教師
- 1ミリ1ミリの成長を見守る教師
- 生徒は何も知らないことを前提とした指導をする教師

教育目標・目指す学校像の実現のため次のスローガンを設定する。

令和6年度 スローガン

- 生徒にとって「学びの場」「成長する場」を保障する学校

- 満足度 100% を目指す学校

4 中期的目標と方策

(1) 教育環境の整備

① 最大の教育環境は教師

教師の意欲、姿勢、行動、言葉遣い、服装などが、生徒に大きな影響を及ぼす。

日々、望ましい姿で臨み、生徒との信頼関係を構築し指導にあたる。

② 居場所のある学校（互いに尊重し認め合える環境）

生徒の個性は多様である。個々の生徒が安心できる場所、人と話ができる場所など様々な場や機会を提供する。

いじめや暴力の他、心無い発言によって、その生徒の居場所が奪われることが無いように各教科、特別活動、道徳などあらゆる機会を通じて生命の大切さ、人権、人はそれぞれ違うこと、人との関わり方を指導し、互いに尊重し認め合える環境を整える。

③ 一人一人が価値のあるちがう人間であることを、日々伝えていく。

自分の命はかけがえのないものであり何よりも大事であること、言葉や思考で自分をさいなまないことを前提とし、他者とのかかわりでは同じ考えで物事を判断することは、不可能であることを共通理念とする。

だからこそお互いの違いを認め、共に生活するための手立てを考えられるような、場と機会を設け3年間でその下地を形成させる。

④ 生徒が主体となって活動できる環境

学校行事、学年行事、生徒会活動、係活動において、生徒が主体となった活動できる場と機会を教職員が意図的に作り出す。生徒と共にあり、教職員と生徒がともに成長する環境を育んでいく。

⑤ 様々な配慮が行き届いた環境

情緒の安定を図るために、全教職員が生徒とともに校舎内外の安全と美化に心がけ、生徒にとって安全で潤いのある教育環境を目指す。さらに、アレルギーの対応、不審者の対応、生徒のケガや事故の未然防止を重視する。

そのために、日ごろから危機管理意識を高め、アレルギーの聞き取りや食の安全と施設の安全点検を確実に励行し、安全確保と安全管理を徹底する。

(2) 地域等との連携を一層推進する

- ① 地域およびPTAとの連携を強化し、授業等、各種学校行事に、学校支援ボランティア・サポーターとして、保護者及び地域の人たちと教職員との連携・協力の下に教育活動を推進する。(学校図書館・グリーンボランティア・避難拠点訓練、防犯パトロール等)
また、公的機関との連携にも留意する。
- ② 各種たより、ホームページ、個人面談、三者面談、学校公開、道徳授業地区公開講座など、具体的な情報発信を適切に行い保護者との信頼関係を深める。
- ③ 学級経営においては、日常の子どもの姿(向上・努力・課題・出来事など)が正確に保護者に伝わるよう、連絡や面談を適宜適切に行う努力をする。
- ④ 学校評議員による学校関係者評価を活用し、学校改善に努める。
- ⑤ 練馬区・学校地域連携事業では、学校支援コーディネータと連携し、地域の力を借りて、学校運営を押し進める。
- ⑥ 練馬区・学校地域連携事業を推進するため、「学校支援推進協議会」を設ける。
この協議会は、学校評議委員会開催のときに、同時に行う。
- ⑦ 地域未来塾では、学習困難などの理由で不登校傾向にある生徒の対応を行う。
- ⑧ 支援を要する生徒に対応する為、地域の協力を仰ぐ。

(3) 学校組織の活性化

- ① 教育目標の実現に向かって全教職員が共通理解のもとに教育活動を推進する。
- ② 校内分掌および校務内容を明確にする。
- ③ 個々の教職員が、その個性と特性を生かしながら共通の価値ある目標に向かって努力する。
- ④ 教職員一人一人が、経営参画意識を高め学校運営にあたる。
- ⑤ 終わりの時間を設定するなど、時間の使い方を意識した会議や授業および諸活動を行う。
- ⑥ 学級通信を含む保護者や地域が目を通す起案文章は、主任→主幹→管理職が確認する。
- ⑦ 疑問に思ったことなどは、声に出して周囲に聴くこと。個人の思い込みで判断しないこと。
- ⑧ 仕事のミスはだれでも起こすことである。いたずらにミスしたことやミスをした人を責めて、ミスをしたことで委縮してしまうような職場環境にしないこと。
- ⑨ 職場で、お互いに助け合い、学び合える、より良いコミュニケーションを心掛けること。

(4) 専門性の向上

- ① 教科や教育課題の他、個々の専門性を高めるために様々な研究会・研修会に参加する。
- ② 生徒と共に常に学び続ける教師として、教育分野に限らず多くの知見を得るように努める。

(5) 学校予算を適正に編成して執行する。

- ① 長期的、短期的な展望に立って予算を編成し、適切な執行を進めて円滑な教育活動を推進する。
- ② 公費、私費共に教師個人のお金ではなく、税金、保護者から徴収したものであることを忘れずに、速やかに厳正に執行する。
- ③ 私費会計での購入計画作成においては、本当に必要なものであるのか、使用頻度などを学年、教科でよく検討してから、物品の購入を計画する。
- ④ 会計事故につながる、現金・カードなどによる代金の立て替えを行わない。
- ⑤ 私費会計に関して各学年で、必要購入数を明確にすること。未定の場合は数に入れないこと。教科担当は、必ず学年に確認してから購入すること。予備などは購入しないこと。
- ⑥ 私費会計で購入したものは、確実に生徒に渡す。余剰分として勝手に使用しない。
- ⑦ 購入後は、速やかに会計処理を行い、学年や教科内で会計処理の状況をチェックする。執行状況を学年出納帳に明記して管理職が毎月点検できる状況にする。

5 令和6年度の経営方針および学校像を実現するための具体的な取組

(1) 校務内容の明確化

- ・各分掌で、具体的な仕事内容や分担をだれが見てもすぐにわかる形で資料提供する。
- ・他の分掌職員は、疑問に思ったら直ちに確認することを怠らない。

(2) 「関中学校でよかった」が100%となる学校経営・学校運営・学年運営

- ・生徒の動きや変容をとらえ、現場責任者としての的確な判断行動をする。
- ・教師一人一人が経営参画の意識をもち職務行動の改善を心掛ける。
- ・職歴および職層に誇りをもった取り組みを行う。

(3) 「関中学校でよかった」が100%となる各教科等の指導

- ・単元指導計画、評価計画をたて、教科指導について生徒保護者に説明できるようにする。
- ・各教科、道徳、総合的な学習の時間の評価を生徒保護者に説明できるようにする。

(4) 「関中学校でよかった」が100%となる生活指導・進路指導

- ・全教職員が、いじめ・暴力・暴言などを絶対に許さない姿勢で臨む。
- ・感情的になることなく指導の場で自分の後ろで保護者が見ていることを想定する。
- ・生徒の声にならない声を聞きとれるように心がける。
- ・命を大切にすることを育てるために、道徳などを活用する。
- ・人権に関する知識を高める。
- ・食事と体の関係や食事と精神の関係を伝え健全育成を促す。
- ・職場体験を有効に活用し、学ぶ目的や働く目的につなげていく。

(5) 「関中学校でよかった」が100%となる特別活動・その他

- ・様々な場や機会において、生徒主体となる活動を展開する。
- ・行事などを通して協働することの大切さを経験させる。
- ・個々の役割を通じて責任感を育成する他、個と集団の違いを認識し行動できるようにする。

(6) 自己の力を100%とするための能力開発

- ・教師自身の専門性を高めるために、様々な研修に参加する。
- ・授業力を向上させるために、他教科での展開や生徒の動きを参観する。

(7) 「関中学校でよかった」が100%となるための振り返り

- ・自己申告や様々な機会を通して自己の計画した取組を振り返り改善する。
- ・生徒に実践させるならば教職員も実践する。
- ・教職員がPDCAの感覚をより身に付けることで、生徒への影響力が増す。
- ・生徒や他者に話していることを常に自分自身に向け自己研鑽する。
- ・学校評価の項目ともリンクさせ、生徒・地域・教職員で相互に理解し向上させる。